

(別記)

令和4年度射水市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、担い手への農地集積率が約86%となっている。現在、組織の再編や新規設立は、鈍化しているものの主穀作を中心に水田農業を営んでいる。

近年の異常気象にも対処しながらも、生産調整の基幹作物である大麦・大豆・そばや園芸作物の生産に取り組んでいる。年々、一人当たりの米消費量が減退するに伴い水稻作付面積の抑制が強いられ、飼料用米等への取り組みも増加している。

今後の課題としては、園芸作物等も微増ながら面積拡大しているが、天候に左右され施設園芸を除けば収穫量は低迷している。一方、販路は概ね確保されているが安定した生産量確保と製品の均質化が重要である。近年の土壌改良資材による土作りの意識が低下していることも、生産量の確保に影響しているので対策が必要である。

また、組織構成員の高齢化・後継者不足・労働災害等も以前からの課題である。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

水田化率の高い当地では、湿害対策が最重点の指導事項であり、並行して土作りも大きなポイントである。作業面では、一連の作業が機械化できる作物・作型を選ぶことにより省力化を進める。また、大麦跡の裏作として、「キャベツ」「えだまめ」「しろねぎ」等を重点に面積拡大を図りGAPの推進と産地化に取り組む。また、六次産業化の一環として、市場出荷できないB品の加工処理（えだまめ）の継続と販売ルートの掘り起こしに努める。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

当地は、県内でも有数の水田地帯(水田率94.8%)であり、水稻を主体に生産されてきた。生産調整では、大麦・大豆が大半を占め湿害対策のため全て団地化(ブロックローテーション)で行われ用水管理にも配慮して行っている。しかし、生産調整面積の増加に伴いブロックローテーションのサイクルが早く、大豆での連作障害がネックとなっている。畑作物への転換は、日々の肥培管理に労力がかかることや市況の変動率も高く組織構成員の高齢化・後継者不足により難しいことから、飼料米等への転換が容易であるため推進する。水田の利用状況の点検は、集落単位で水田の貯水機能も含め水稻不作付地の水張り管理も必要である。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

- ・生産調整の自主的取り組みが重視されるなか、本市産米の作付比率の適正化や適切な土作りを基本に品質の向上を図り、ブランド力の強化・販路の拡大を図る。
- ・生産面では、直播栽培(乾田V溝・湛水)、密苗、病害虫防除(ラジヘリ・ドローン等)による作業時間の削減に努める。

(2) 備蓄米

- ・生産調整の一手法と位置づけ、需要に応じた生産に取り組む。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

- ・需要に応じた取り組みを進める。
- ・複数年契約や生産コスト低減を進める。

イ 米粉用米

- ・需要に応じた取り組みを進める。
- ・複数年契約やコスト低減を進める。

ウ 新市場開拓用米

- ・需要動向に応じて取り組む。

エ WCS 用稲

- ・需要があれば取り組む。

オ 加工用米

- ・備蓄米と同様に生産調整の一手法として、団地化の困難な地域へ進める。
- また、早生品種・直播栽培・密苗等による収量・生産コスト低減を進める。

(4) 麦、大豆、飼料作物

- ・消費動向や実需者ニーズの動向に応じた生産と製品の高位平準化に努める。
- ・大麦、大豆共に、担い手への農地集積を進め額縁排水溝等排水対策を徹底し収量の安定化と品質の向上を図る。 また、二毛作大豆への面積拡大を進める。

(5) そば、なたね

- ・そば、なたねは、需要に応じた作付けを進める。

(6) 地力増進作物

- ・水稻や戦略作物等の作付前や後作に緑肥を導入し、生産性の向上と収量の安定化を図るため作付けを進める。

(7) 高収益作物

- ・担い手を中心に、重点園芸作物（えだまめ、しろねぎ、キャベツ、こまつな、いちご）の産地化を目指す。 また、園芸振興作物として（かぼちゃ、とうもろこし、さといも、ブロッコリー、にんじん、タマネギ、ばれいしょ等）を、位置付け地産地消運動と連携した取り組み強化に努める。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和5年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	2,003.7	0	1,976.0	0	2,000.0	
備蓄米	212.4	0	249.0	0	200.0	
飼料用米	80.3	0	73.8	0	80.0	
米粉用米	21.2	0	22.0	0	24.0	
新市場開拓用米	0	0	0	0	0	
WCS用稲	0	0	0	0	0	
加工用米	72.5	0	52.5	0	120.0	
麦	463.9	0	493.0	1.2	500.0	
大豆	479.8	157	500.0	160	315.0	
飼料作物	0	0	0	0	0	
・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0	
そば	4.4	3.3	6.0	4.5	1.0	
なたね	0	0	0	0	0	
地力増進作物	0	0	0	0	0	
高収益作物	56.7	9	57.7	13	56.6	
・野菜	56	13	57.0	13	55.0	
・花き・花木	0.4	0	0.4	0	1.1	
・果樹	0.3	0	0.3	0	0.5	
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0	
畑地化	0	0	0	0	0	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	大 麦	大麦担い手集積加算	担い手集積の増大	（令和3年度）462ha （令和2年度）457ha	（令和5年度）500ha （4年度）493ha
2	大 麦	大麦技術加算	生産性の向上と収量の安定化設定単収以上の経営体割合 （交付対象面積） 参考：地域の平均単収	（令和3年度）83% （47/56） （366ha） 241kg/10a （令和2年度）53%（31/58） （273ha） 200kg/10a	（令和5年度）81% （50/62） （410ha） 250kg/10a （令和4年度）70%（41/58） （300ha） 230kg/10a
3	大 豆	大豆担い手集積加算	担い手集積の増大	（令和3年度）321ha （令和2年度）299ha	（令和5年度）350ha （4年度）310ha
4・6	大豆（基幹作・二毛作）	大豆技術加算	生産性の向上と収量の安定化設定単収以上の経営体割合 （交付対象面積） 参考：地域の平均単収	（令和3年度）60% （31/51） （352ha） 160kg/10a （令和2年度）52%（26/50） （284ha） 119kg/10a	（令和5年度）70% （36/51） （370ha） 200kg/10a （令和4年度）65%（33/51） （360ha） 185kg/10a
5	大 豆（二毛作）	大麦跡高度利用加算	麦跡圃場の利用率 （二毛作/大麦（基幹作） 【二毛作面積（大豆）】	（令和3年度）40% 157ha （令和2年度）34% 159ha	（令和5年度）34% 162ha （令和4年度）34% 161ha
7～10	・えだまめ、白ネギ、キャベツ ：基幹作、二毛作 ・こまつな、いちご ：基幹作	重点園芸作物基本助成 （基幹作、二毛作）	作付面積拡大	（令和3年度）55ha （令和2年度）52ha	（令和5年度）56ha （4年度）55ha
11～14	・えだまめ、白ネギ、キャベツ ：基幹作、二毛作 ・こまつな、いちご ：基幹作	重点園芸作物集積加算 （基幹作、二毛作）	取組面積拡大	（令和3年度）55ha （令和2年度）52ha	（令和5年度）56ha （4年度）55ha
15～16	・えだまめ、白ネギ、キャベツ ：基幹作、二毛作 ・こまつな、いちご ：基幹作	重点園芸作物担い手加算 （基幹作、二毛作）	取組面積拡大	（令和3年度）50ha （令和2年度）47ha	（令和5年度）50ha （4年度）49ha
17・18	I類：かぼちゃ、とうもろこし、サトイモ、ブロッコリー、にんじん、玉ねぎ、ぱれいしょ、ニンニク、もも II類：小菊、ストック、へちま、にら、水菜、トマト（基幹作）	園芸振興作物助成	作付面積拡大	（令和3年度）8ha （令和2年度）9ha	（令和5年度）12ha （4年度）11ha
19	そば（基幹作）	そば作付助成	需要に応じた供給量の確保	（令和3年度）1ha （令和2年度）1ha	（令和5年度）2ha （4年度）2ha
20	飼料用米、米粉用米 （基幹作）	飼料用米、米粉用米の 複数年契約取組加算	複数年契約取組	（令和3年度） 飼料：65.79ha・373t 米粉：20.13ha・114t （令和2年度） 飼料：53.65ha・283t 米粉：20.16ha・109t	（令和5年度） 飼料：80ha・454t 米粉：24ha・136t
			面積・数量		（令和4年度） 飼料：75ha・426t 米粉：23ha・130t

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:富山県

協議会名:射水市農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取組要件等 ※4
1	大麦担い手集積加算	1	2,980	大麦(基幹作)	担い手集積による作付面積に対して支援
2	大麦技術加算	1	1,600	大麦(基幹作)	額縁排水溝の設置・設定単収(193kg/10a以上)
3	大豆担い手集積加算	1	5,240	大豆(基幹作)	担い手集積による作付面積に対して支援
4	大豆技術加算	1	1,600	大豆(基幹作)	額縁排水溝の設置・設定単収(113kg/10a以上)
5	大麦跡高度利用加算(大豆二毛作)	2	8,070	大豆(二毛作)	大麦跡大豆の作付への支援
6	大豆技術加算(二毛作)	2	1,600	大豆(二毛作)	額縁排水溝の設置・設定単収(113kg/10a以上)
7	重点園芸作物基本助成	1	40,400	えだまめ、しろねぎ、キャベツ(基幹作)	1作物あたり10a以上作付した者に対して支援
8	重点園芸作物基本助成(二毛作)	2	40,400	えだまめ、しろねぎ、キャベツ(二毛作)	戦略作物跡の二毛作面積対して支援
9	重点園芸作物基本助成(二毛作)	2	8,070	えだまめ、しろねぎ、キャベツ(二毛作)	えだまめ、しろねぎ、キャベツでの作物同士の二毛作面積に対して支援
10	重点園芸作物基本助成	1	40,400	こまつな、いちご(基幹作)	1作物あたり3a以上作付した者に対して支援
11	重点園芸作物集積加算	1	16,150	えだまめ、しろねぎ、キャベツ(基幹作)	1作物あたり20a以上作付した者に対して支援
12	重点園芸作物集積加算(二毛作)	2	16,150	えだまめ、しろねぎ、キャベツ(二毛作)	二毛作で1作物あたり20a以上作付した者に対して支援
13	重点園芸作物集積加算(二毛作)	2	8,070	えだまめ、しろねぎ、キャベツ(二毛作)	えだまめ、しろねぎ、こまつな、同士の二毛作で1作物あたり20a以上作付けた者
14	重点園芸作物集積加算	1	8,070	こまつな、いちご(基幹作)	1作物あたり6a以上作付した者に対して支援
15-1	重点園芸作物担い手加算(基幹作)	1	8,070	えだまめ、しろねぎ、キャベツ(基幹作)	1作物あたり10a以上作付した担い手に対して支援
15-2	重点園芸作物担い手加算(基幹作)	1	8,070	こまつな、いちご(基幹作)	1作物あたり3a以上作付した担い手に対して支援
16	重点園芸作物担い手加算(二毛作)	2	8,070	えだまめ、しろねぎ、キャベツ(二毛作)	1作物あたり10a以上作付した担い手に対して支援
17	園芸振興作物助成Ⅰ類	1	32,320	Ⅰ類：かぼちゃ、とうもろこし、サトイモ、ブロッコリー、にんじん、玉ねぎ、ばれいしょ、ニンニク、もも（基幹作）	1作物あたり10a以上作付した者に対して支援
18	園芸振興作物助成Ⅱ類	1	32,320	Ⅱ類：小菊、ストック、へちま、にら、水菜、トマト（基幹作）	1作物あたり3a以上作付した者に対して支援
19	そば作付助成(基幹作)	1	0(上限20,000)	そば(基幹作)	作付面積に応じて支援(追加配分で支援)
20	飼料用米、米粉用米の複数年契約	1	0(上限6,000)	水稻(基幹作)	実需者との複数年契約の締結をした面積に応じて支援(追加配分で支援)

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。
ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。